

23
建築物の耐震性能評価

＜屋上緑化仕様＞
（品質・性能）

項目	品質・性能
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等が耐腐食性及び耐久性能のあるものであること。 （保水層を有する場合は、保水容量）
排水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、滲込み雨水を排出させない構造であること。
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び踏み込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の配置方向的排水性能	240l/(㎡・h)以上
耐荷重性能	一般7/10階の上歩歩行に際し破壊しないこと。 3.0×10 ⁴ ・N/㎡以上の載荷重で破損、有害なひずみなど異常のないこと。（保水層を有する場合は保水容量）
耐根腐	茎ね合ひ部を含め、7/10等の地下部伸長力の強い植物に対し3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性能のあるものであること。
防水層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性能を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根腐を確保するものであること。但し、防水層が防水層保護層と同等の性能を有すると認められる場合は省略することが出来るものとする。

（試験方法）

(1) 透水（A12）の透水性能
(a) JIS A1218「の透水試験方法」の定位置透水試験に準じたいわゆる7/10等の透水試験装置の下部に試験体（透水材）を押し、その上に砂（JIS A5308（注）3/10）付層厚が規定する砂）及び0.4/250を容積比の割合で混合し、高さ80mmの試験装置に加工せずに均一に充填する。
(注）試験体（体）
(b) 常速で目置いた後、上部より給水する。給水5日間連続後取り出し自然水切り2日とし給水4/10を繰り返す。2週間を2回下らない測定回数で圧力差の水圧差10mmを保持したまま、1分間の透水量を計量し、透水係数を算出する。なお、乾置工程の試験室は室温20℃±2度、湿度60±5％とする。
(c) 透水切り工程は、試験体の入った試験装置を取り出し、試験室内に水が切れる状態で試験室内に保管する。
(d) 各1/10ごとの透水係数の推移を7/10とし、6週間を過ぎるまでにその週の数値が直前の週の数値より低い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できれば自然水切りが解消方向にあると判断し、合格と看做する。
(e) 試験開始後6週間、流水時間合計が30日を越えた時点で透水係数がまだ上昇に転じない場合は、その後も透水係数が増加する方向へ向かうまで流水時間を延長して確認することも可とする。
（保水層を有する場合は保水率も対象とする。）

(2) 排水性能の耐荷重性能
(a) 3.0×10⁴・N/㎡の等分布荷重による加压試験を行ない、排水層及び耐根腐等々に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み(%)を測定する。
(b) 試験体は耐根腐から透水層までを通過使用状態に押し3体とする。加压速度は10mm/分以下とする。

＜屋上緑化仕様＞
（品質・性能）

項目	品質・性能
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等が耐腐食性及び耐久性能のあるものであること。 （保水層を有する場合は、保水容量）
排水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、滲込み雨水を排出させない構造であること。
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び踏み込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の配置方向的排水性能	240l/(㎡・h)以上
耐荷重性能	一般7/10階の上歩歩行に際し破壊しないこと。 3.0×10 ⁴ ・N/㎡以上の載荷重で破損、有害なひずみなど異常のないこと。（保水層を有する場合は保水容量）
耐根腐	茎ね合ひ部を含め、7/10等の地下部伸長力の強い植物に対し3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性能のあるものであること。
防水層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性能を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根腐を確保するものであること。但し、防水層が防水層保護層と同等の性能を有すると認められる場合は省略することが出来るものとする。

（試験方法）

(1) 排水性能の耐荷重性能
(a) 3.0×10⁴・4/10(N/㎡)の等分布荷重による加压試験を行ない、排水層及び耐根腐等々に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み(%)を測定する。
（保水層を有する場合は保水率も対象とする。）
(b) 試験体は耐根腐から透水層までを通過使用状態に押し3体とする。加压速度は10mm/分以下とする。

平成26年度静岡県立総合病院(仮称)カルテセンター新築工事

建築材料等品質性能表（2）

A1 :-
A3 :-

A - 09

4. 09. 26